

日本人女性の声が汚くなった

ㄥㄥ 真理は隠れている。探し出すのはあなた自身だ。 小野しまと

☆ ☆ ☆

実のところ、私は、日本人女性の話す声は世界でも最高に美しいと思っていた。これほど清潔感のある「お喋り」ができるのは日本語だけだとも思っていた。

学生の頃、横浜の野毛にあったラジオ局の深夜放送をよく聞いていたが、担当の女子アナウンサーの声に魅せられたのが最初だった。

以来、日本語の発声は美しいと思いつけてきたが、それは決してお国びいきばかりではなく、日本語のいろいろな特徴からも根拠づけられることだという確信があった。

日本語の発声は、強すぎず、弱すぎず、適度な柔らかさを保っているながら、五つの母音で構成された明瞭な音を正しく伝えてくれる。一般に、イントネーションの起伏も強くなく、滑らかな音の流れを感じさせる、優れた言語なのだ。

ずうっとそう思っていたのだが、今度、足かけ六年半のパリ生活を終えて帰国し、再び日本で暮らすようになって、この信念はもろくも崩れ去ることになった。

私は、主としてテレビのニュース番組を見ることが多いのだが、女性アナウンサーの声に違和感を覚え、聞いているのが耐えられなくなって、音を下げたり、時には消してしまうことが度々生じるようになったのだ。これは、フランスにいた時には一度も経験しなかったことである。

私は、テレビやラジオの音質にはこだわるほうなので、この聞くに耐えない音が、音響装置の効果などといった機械的な原因によるものでないことは断言できる。

それに、BS放送の海外ニュースはよく見ているが、フランス語の発声に不快感を抱いたことは一度も無い。ところが、それを日本語音声に切り替えると、とたんに女性通訳の異様な声が響いてきて、音を消そうとする衝動、あるいは音から逃れようとする衝動に駆られることが多いのだ。

私は、彼女らの声そのものが悪いと言うつもりはない。ただ、何か特別な発声法をしているのではないかと思うのである。

音声学にはシロウトの私だが、個人的に感じたままのことを言わせてもらおうと、何か「地声」と「裏声」の混じったような奇妙な声を出している女性が多いのである。

特に、通訳や海外特派員にこのような傾向を感じるのだが、程度の差はあれ、正規の女性アナウンサーにも、それに似た発声のあることに今回気がついたのだ。

彼女らは、できるだけ美しい、女性的な声を出そうとして頑張っているのに違いない。それが裏声ふうの張りつめた声となって続いている間はよいのだが、地声ふうの自分本来の声に戻る時、奇妙なダミ声となって、不快な音を響かせるのである。

女性アナウンサーの、話を結ぶ時の表現「何々です」「何々でした」によく耳を傾けてほしい。この「です・でした」が非常に強い破裂音になり、ダミ声のように響いていることに気がつくだろう。

彼女らはきっと英語が上手なんだろうと思う。鼻声を喉の奥で響かせるような英語独特の発声が、「です・でした」にも感じられるからだ。

しかも、「です・でした」には、英語のように子音の強さが残っているため、日本語の柔らかさや優しさを感じられない。話を終わる時には、強い破裂音ではなく軽い摩擦音で、「消え入りがちに」子音を発音するのが、日本語会話の特徴であり、良さなのだ。

面と向かって話し合う時の自然な発声がそれなのだが、最近の日本人女性は、そういう自然な発声から離れて、裏声を交えた「作り声」のほうへ向かっているような気がする。

それは、アルトやメゾの女性歌手が、無理矢理ソプラノの発声で歌おうとするようなものなのだ。

最近の若い女性たちの「すごーい」とか「うれしーい」という叫びにも、自分の本来の声を離れて、「かわいーい」声になろうとする、同じような傾向を見て取ることができよう。

パリにいた六年半の間、一度もフランス人の女性の声を不快に感じなかったのは、彼女らが自然な声のままに語ろうとするからではないだろうか。

美声を目立たせる必要もないし、悪声を隠す必要もないのである。自分が持っている自然な声のままに話せば、フランス語のように多少子音が強く響いても耳障りなことはなく、それなりの個性と魅力を感じさせるであろう。

少なくとも、聞くに耐えないような気持ちにさせたり、その声を消してしまいたいと思わせるようなことは無いはずである。

実は、昨夜見た海外ニュースで、男性特派員の中にも、同じような発声をする人がいることを知った。男が甲高い声を出して話をしても別におかしくはない。しかし、それを、粘り着くような裏声にして「美化」しようとする、かえって耳障りな声になってしまう。

以上は、私の個人的な体験とその感想を率直に述べただけで、特に実証的、科学的な根拠があつて言ってるわけではないので、あまり重い意味には取らないでほしい。しかし、日本に帰国してからは、テレビを見ている、音声を下げたり消したりする操作がひとつ増えたことだけは事実である。

[2007/09/10 magmag]